

# 平井尚志の なめとこ山通信



## 第63回 宇宙にいるのは、われわれだけではない、 のか本当に？

皆さんこんにちは。コロナウイルスのワクチン接種がいよいよ始まり、緊急事態宣言の終わりが見えてきて、世の中は少しずつでも変わっていくのでしょうか。もと通りの生活に戻る、と言うよりは、やはり新しい生活スタイルの新しい時代が始まるような感じもします。皆さん、いかがお過ごしでしょうか。

さて、今回の「なめとこ山通信」は、コロナの話題はあえて避けまして、最近ちょっと気になった、宇宙の話題で、お茶を濁してみようと思います。実は私は、子供時代にはアシモフ、クラーク、レイ・ブラッドベリらの小説を読み耽っていたSF少年でした。映画も、SF映画は好きですね。「宇宙にいるのは、われわれだけではない」って、何の映画のキャッチコピーだったか、おわかりですか？ お時間ありましたら、相変わらずの駄文にお付き合いください。

日本時間の2月19日朝、NASA(アメリカ航空宇宙局)が打ち上げた火星探査車「パーサピアランス」が、火星着陸に成功したというニュースが入ってきました。着陸時には、パラシュートを使ったということも新鮮な驚きでした。(私が無知なだけでしたが。)

「火星にも大気があるんだ。」と思ったのです。パラシュート、見事に開いていましたよね。さらに、このパラシュートの模様には、NASAから仕掛けられたメッセージが込められていること



「パーサピアランス」 =NASA 提供

がわかり、インターネット上で話題になりました。パラシュートの模様をバイナリーコードに見立てて解読



パーサピアランスの着陸時に開いたパラシュート。赤と白の模様が暗号になっていた=NASA 提供

すると、「dare mighty things (困難に挑戦を!)」と読めるのだそうです。なんだか、粋なことをしましたね。私は当初、この探査車の名前が「パーサピアランス Perseverance」(報道機関によって、「パーシピアランス」としているところもあります。)すなわち「忍耐力」というネーミングであったことを、ちょっと意外に思っていました。でも、「忍耐力をもって、困難なことに挑戦するぞ!」というメッセージは、なんだか、コロナウイルスに席卷された世界へ向けた、NASAからの励ましであり、自負のようでもあり、勝手に感じたのでした。パーサピアランスが打ち上げられたの

は、昨年7月のことです。NASAの科学者の頭の中には、今のこの地球に何かメッセージを送らなくては、という思いもあったのでしょうか。今回のこの火星探査計画には、火星での生息可能性の探索や、生命存在指標の探索といったミッションがあるようです。はたして火星に、生命の痕跡はあるのでしょうか。遠い将来、人類は火星に棲むことができるようになるのでしょうか。夢のようなお話です。が、すごく遠い将来のことではないのかもしれませんが。

生命の起源を探る、ということでは、昨年12月に、JAXAの小惑星探査機「はやぶさ2」の帰還カプセルが、見事に任務を果たして地球に帰ってきたというニュースがありました。初号機の「はやぶさ」と違って、帰ってきたのは砂や石を持ち帰ったカプセルだけで、カプセルを放出した「はやぶさ2」探査機本体は、再び地球を離れて、新たな小惑星に向かう拡張ミッションに入ったのだそうです。なんだかすごいですね。「はやぶさ2」が打ち上げられたのは、2014年12月のことでした。その前年、JAXAは「星の王子さまに会いにいきませんかミリオンキャンペーン2」として、「はやぶさ2」の再突入カプセルに登載するメモリチップに、応募者の名前やメッセージを記録してくれるキャンペーンを行いました。当時、私は特別支援学校に勤務しており、その年は「宇宙」をテーマに様々な授業を計画していた（文化祭では、プラネタリウムを作りました）、私たちもそのJAXAのキャンペーンに応募したことを覚えています。「宇宙人に、会えるかな」「武蔵野線が、宇宙まで行きますように。」というような生徒たちのメッセージと一緒に、私は「Bグループのみんなの願いが、宇宙を旅して、大きくなりますように」というメッセージを記録してもらいました。そして、それらの私たちの言葉を載せて「はやぶさ2」は宇宙を旅し、昨年無事、カプセルは地球に帰還したわけです。少し、感慨深いものがありました。この「はやぶさ2」の帰還カプセルは、3月12日から16日の間、相模原市立博物館の特別展示室で公開されるそうです。



さてこのようにして、私たち人類は、宇宙に出かけて生命の秘密を解き明かそうとしています。そして、宇宙に他の生命体がないかどうか、探し求めているわけです。地球から人類のメッセージを載せて打ち上げられた宇宙探査機は、1972年の「パイオニア10号」を初めとして、1977年には「ボイジャー1号・2号」が打ち上げられています。「ボイジャー1号」はその後も着々と宇宙を旅し続け、今では太陽系を離れて地球から最も遠くに到達した人工物となり、あと4万年後（！）に、一番近い星に到着するのだそうです。そのような地球外生命体の探索には、現在、地球上の電波望遠鏡で受信した宇宙からの電波を解析して、知的生命体から発せられたものがないかを探するというプロジェクトも進行しているそうです。

ところで最近私は、中国人作家である劉慈欣の『三体』というSF小説を読みました。面白かったので、続編である『三体Ⅱ 黒暗森林』も読みました。そうしてふと、怖くなったのです。以下、その理由をつらつらと書きますが、かなりネタバレがありますから、これから『三体』シリーズを読んで



みようと思っている方は、どうぞ読み飛ばしてしまってください。

小説『三体』にもやはり、地球外知的生命体探査を行うための施設「紅岸基地」が登場します。天文学者の葉文潔は、その紅岸基地で働いていました。基地からは、地球文明を紹介する電波が発信されていましたが、それが、地球から約4光年離れた惑星に存在する「三体文明」に届くのです。そして、三体文明から送られてきた返信メッセージを、偶然、葉文潔だけが発見します。それは、「これ以上応答するな!」という内容でした。やっと受信した宇宙人からのメッセージが、「応答するな!」なのです。皆さんなら、どうしますか？ 葉文潔は、警告を無視して三体文明に向けて応答しました。その後どうなるか、わかっています。実は三体文明は、非常に高度に発展した文明ですが、三体人が住む星は三つの太陽が存在するという、とても過酷な環境の星であり、三体人から見ると地球は、移住に適した楽園なのでした。そのため三体人は、自らが棲む星を放棄して、地球移住、すなわち地球侵略のために行動を起こすのでした。「応答するな」とは、三体人の中の平和主義者が地球人に向けて発した警告なのでした。葉文潔のしたこととは、三体人に地球の位置を教えてしまった行為であり、人類滅亡への引き金を引いてしまった行為なのでした。高度に発展した三体文明の宇宙船であっても、地球到達までは450年ほどかかります。すなわち、人類に残された時間はあと、450年です。『三体Ⅱ』は、その450年間に起きたことを一気に描きます。



『三体Ⅱ』には「黑暗森林」という副題がついています。登場人物の一人はこう言います。「宇宙は暗黒の森だ。あらゆる文明は、猟銃を携えた狩人で、幽霊のようにひっそりと森の中に隠れている。」と。だからどの文明も、宇宙の中で自分の居場所がどの星からも知られないようにしているのです。それは居場所を知られたら、必ず攻撃されるからなのです。暗黒のジャングルの中で生き延びるには、出会ったものは、攻撃される前に、攻撃するしかないのです。宇宙は広大で、しかしそれゆえに地球と同じような惑星も数多くあるはず。けれども、私たちが宇宙人と全くコンタクトがとれないのは、賢明な文明は、暗黒のジャングルの中では息を殺して誰にも見付からないようにしているからなのです。逆に、自己主張する星は、より高度の文明から必ず攻撃されるというわけなのです。(だから地球は、毎週のようにバルタン星人やメフィラス星人等の異星人から侵略を受けていたのだと、合点がいきました。笑)しかしこの「黑暗森林」のキーワードが、『三体Ⅱ』の展開上たいへん重要になってきます。興味が湧いてきた方はぜひ、『三体』シリーズを読んでみてください。

昨日は、たいへん綺麗な満月が、空に登ってきたのが見えました。かつてミュージシャンのジョー・ストラマーは、「月に手をのばせ。たとえ届かなくてもね。」と言いました。思えば、月に向かって手をのばすことから、科学は進歩していったのかもしれないね。あんなに綺麗なものを手に取ってみたいくて、手をのばしてみる。もちろん届かないから、次は石を投げてみる。やはり届かないから、火薬の力でロケットを飛ばしてみる。もっと大きなロケットで、もっと大きなロケットで。そしてそのロケットに乗り込んで、月にいけるんじゃないかと想像する。・・・そうして人類は、月に降り立ちました。その原動力は、何でしょうか。・・・知りたい、と思う心。月に手をのばしてみる、ただその、何かしてみようという気持ち。・・・最近では、月を見上げることさえ、しなくなっていましたよね。

人類は、宇宙にロケットを飛ばせるようになりました。そうしてやっぱり思うんです。誰か、いないだろうか、と。宇宙にいるのは、まさかまさか、私たちだけなんてことは、ないよね、と。地球を侵略してくる宇宙人の話は、山ほどあります。同じように、友好的な宇宙人の話もたくさんあります。本当のところは、どうなのでしょうね。どちらにせよ、「私はここにいる！」って叫んでしまうのも、知りたい！って思うのも、ヒトとしての性なのかもしれません。

月に手をのばしましょう。たとえ届かなくても。